



シロコト、フオン、シーボルト氏
北海道歴観阜見

2464

2465



114
A4502



北海道歴観序見

峯源次郎譯

大正十一年四月
侯爵郵寄贈

夫レ海中ノ孤島ニシテ天然ノ沃野アリ大ニ邦家ノ利益トナル
 モノト世界中幾箇カアル然リ而シテ北海道ノ如キモノハ誠ニ
 得易カラサルナリ其産物ハ則チ石炭木材及ヒ種々鑛物ノ属尤
 モ邦家ノ利益トナルヘキモノナリ此故ニ今此石炭ヲ掘リ鑛物
 ヲ鑿リ木材ヲ整ユルオモテ多ク費用ヲ要セス且ツ之レヲ諸方
 ニ運搬スルモ多ク費用ヲ要セサルヲ以テ大緊要ノ事トナスヘ
 シ蓋シ其運搬スルノ地方ハ右品不足ニシテ相場貴昂ノ所ヲ撰
 ブヘキナリ且今ヲ以テ之レヲ觀察スルニ北海道ニ在テハ石炭
 木材鑛物ヲ消費スルニ甚々稀少ナルカ故ニ之ヲ他方ニ運搬ス
 ル滋以テ其便益ヲ証スヘキナリ

北海道ニ在テハ論ハ多ク河流アリテ運輸ノ便ヲナスモ裡ニ

就テ大有用ナルモノハ只ク一二ニ過キスト聞ケリ而シテ此一二トイハ氏周年間悉ク運輸ノ便ヲ為スニ非ス年ノ中幾日ハ必ズ阻礙ニ逢フコトアリ

日本内地ニ於テ道路ノ要用ナルカ如ク茲地ニ於テモ大ニ道路ノ要用ナルヲミル然リ而シテ其道路タル地形ヨキ諸港ト連絡セザルベカラズ且ツ成ルベク凹凸ナク丁寧ニ經營スヘキナリ

先年來函館ニ製革所ヲ設ケ牛馬皮ハ勿論鹿皮海馬皮等ヲ鞣皮ニ製シ馬鞍靴手袋等ヲモ製造セリ

北海道土人ナリ此アイ

ミナレハ今コレヲシテ道路經營ノ勞ヲ助ケシムルヲ得ベシ又タ將來ニ於テ彼等ニ稅ヲ課セシテ此稅ノ代リニ各村落ニ命シテ道路ヲ經營セシメ且ツ道路ノ長短ヲ計リテ各村落ニ屬シ價シテ荒廢スルナカラレムベシ此ノ如クスレバ僅カニ數年ノ間ニシテ客場ニ數千里ノ道路ヲ經營スルヲ得ハシ是レ產物ノ地

舊土人
州施設
不ハキ
ハ米利取
増シ能
購
ハハ既

方海岸ト隔絶スルモ容易ニ之ヲ運輸スルヲ得ヘキカ故ニ日本内地ノ為メニナラス猶ホ一般ニ北海道人民ノ為メニ其利益タル旧來ニ二倍スルナルヘシ且ツアイノリノ為メニモ稅金ヲ拂フヨリモ輕易ノ仕事ヲ為スハ固ヨリ其欲スル所ナルヘシ
橋梁ハ道路ニ至テ要用ナルモノナレハ殊ニ之カ營繕ニ注意セサルヘカラカルナリ是レ北海道ニ在テハ雪融ケ或ハ大雨ボノ為ニ不時ニ河水滿漲シ之カ為ニ橋梁ヲ漂蓋損傷スルボノヲアレハナリ又タ久シキヲ經テ能ク腐朽セサランコトノ為ニ堅木ヲ以テ構造セサルベカラス然ルニ北海道ニハ堅木ハ沢山ナルニ現今ノ橋梁ヲミルニ多ク此堅木ヲ用井ナルカ如シ
馬ヲ籍テ物ヲ運搬スルハ諸運搬法ノ一ニ屬シテ北海道ノ為ニハ既ニ至要ノ事件トナレリ然レモ今此ノ馬ノ使用方ヲ改良シテ猶ホ一層ノ便益トナルヘシ函館ヨリ森室蘭ヲ過キ札幌ニ至

馬
官民
ハハ既
ノハ

就テ大有用ナルモノハ只ク一二ニ過キスト聞ケリ而シテ此
二トイハ氏周年間悉ク運輸ノ便ヲ為スニ非ス年中幾日
必ス阻礙ニ逢フコトアリ
日本内地ニ於テ道路ノ要用ナルカ如ク茲地ニ於テモ大ニ道路
ノ要用ナルヲミル然リ而シテ其道路タル地形ヨキ諸港ト連絡
セザルベカラス且ツ成ルベク凹凸ナク丁寧ニ經營スヘキナリ
余北海道ノ人口ヲ測ルニ多ハアイノール(北海道土人)ナリ此アイ
ノールハ年中差シタル仕事ナク或ハ僅カニ一二ノ仕事ヲナスノ
ミナレハ今コレヲシテ道路經營ノ勞ヲ助ケシムルヲ得ベシ又
タ將來ニ於テ彼等ニ稅ヲ課セシテ此稅ノ代リニ各村落ニ命
シテ道路ヲ經營セシメ且ツ道路ノ長短ヲ計リテ各村落ニ屬シ
シテ荒廢スルナカラシムベシ此ノ如クスレバ僅カニ數年ノ間
ニシテ容易ニ數千里ノ道路ヲ經營スルヲ得ハシ是レ產物ノ地

方海岸ト隔絶スルモ容易ニ之ヲ運輸スルヲ得ヘキカ故ニ日本
内地ノ為メニナラス猶ホ一般ニ北海道人民ノ為メニ其利益ヲ
ル旧來ニ二倍スルナルヘシ且ツアイノールノ為メニモ稅金ヲ拂
フヨリモ輕易ノ仕事ヲ為スハ固ヨリ其欲スル所ナルヘシ
橋梁ハ道路ニ至テ要用ナルモノナレハ殊ニ之カ營繕ニ注意セ
サルヘカラサルナリ是レ北海道ニ在テハ雪融ケ或ハ大雨ボノ
為ニ不時ニ河水滿漲シ之カ為ニ橋梁ヲ漂蓋損傷スルボノコトア
レハナリ又タ久シキヲ經テ能ク腐朽セサランコトノ為ニ堅木ヲ
以テ構造セサルベカラス然ルニ北海道ニハ堅木ハ沢山ナルニ
現今ノ橋梁ヲミルニ多ク此堅木ヲ用井サルカ如シ
馬ヲ籍テ物ヲ運搬スルハ諸運搬法ノ一ニ屬シテ北海道ノ為ニ
ハ既ニ至要ノ事件トナレリ然レモ今此ノ馬ノ使用方ヲ改メ
ハ猶ホ一層ノ便益トナルヘシ函館ヨリ森室蘭ヲ過キ札幌ニ至

舊土人
尤設施
不ハキ
ハ米利販
増シ能
購
道
レハ既
丁ノ如
官民
馬

只夕一二ニ過キスト聞ケリ而シテ此一
ク運輸ノ便ヲ為スニ非ス年ノ中幾日
ノ要用ナルカ如ク茲地ニ於テモ大ニ道路
リ而シテ其道路タル地形ヨキ諸港ト連絡
成ルベク凹凸ナク丁寧ニ經營スヘキナリ
ルニ多ハ「アイノ」(北海道土人)ナリ此「アイ
仕事ナク或ハ僅カニ一二ノ仕事ヲナスノ
テ道路經營ノ勞ヲ助ケシムルヲ得ベシ又
稅ヲ課セスレテ此稅ノ代リニ各村落ニ命
且ツ道路ノ長短ヲ計リテ各村落ニ屬シ煩
レムベシ此ノ如クスレバ僅カニ數年ノ間
ノ道路ヲ經營スルヲ得ハシ是レ產物ノ地

容易ニ之ヲ運輸スルヲ得ヘキカ故ニ日本
猶ホ一般ニ北海道人民ノ為メニ其利益ヲ
ルヘシ且ツ「アイノ」ノ為メニモ稅金ヲ拂
ヲ為スハ固ヨリ其欲スル所ナルヘシ
用ナルモノナレハ殊ニ之カ營繕ニ注意セ
是レ北海道ニ在テハ雪融ケ或ハ大雨ボノ
レ之カ為ニ橋梁ヲ漂蓋損傷スルボノ「ア
經テ能ク腐朽セサラン「ア」ノ為ニ堅木ヲ
ラス然ルニ北海道ニハ堅木ハ沢山ナルニ
多ク此堅木ヲ用井ナルカ如シ
ルハ諸運搬法ノ一ニ屬シテ北海道ノ為ニ
ナレリ然レモ今此ノ馬ノ使用方ヲ改メ
ナルヘシ函館ヨリ森室蘭ヲ過キ札幌ニ至

舊土人モ男子ニ漁獵婦人ハ厚子織等ノ職業ヲ營ミ遊手ハ之ヲナシ
尤施設上ニ於テ道路ノ緊要ナルハ勿論ニ付要衝ノ場所ハ既ニ夫
湖設或ハ修理ニ其要計ナルモ未タ着手セサルモハ今後開設修理
スヘキ積ヲ以テ目今規畫照按中ノモノ多シ

未利堅ヨリ購入セルメリノ、リノ、カウ、ス、カ、ウ、ハ
ヨリ購入セルモノナリ就中リノ、カ、ウ、ス、カ、ウ、ハ
「ア」モ能ク繁茂セルヲ以テ大ニ後來ニ見込アリ仍テ
増シ益其蕃殖ヲ計ル「ア」ニ決定セリ

道路諸ハ往々干満ノ度甚タ異ナリ随テ其流脈ノ方向時々變遷
スルヲ以テ限防ヲ設クルニ甚タ難シト雖モ從來最モ苦慮スル所ナ
レハ既ニ架設スル橋梁ハ概シ堅材ヲ用ヒ石狩豊平二川限防ノ
「ア」ノ如キハ既ニ着手施行セルモノアリ

馬車 夫年來札幌官園七重試驗場等ニ於テ使用セシカ尚先
般ウ「ア」ノスト「ア」ノ購入在所ノ荷馬車及雪車ヲ模造シ廣ク
官民ノ貨物運搬ノ方法ヲ設クル「ア」ニ決定セリ

ルマデノ間ハ既ニ新道開設スレハ此等ノ場所ニハ木製(庶價ニシテ)脩飾ナク製スヘシノ荷車ヲ一足若シクハ二足ノ馬ニテ使用セザルヘカラス此荷車ハ木材或ハ諸般ノ荷物ヲ運搬スル為ニ至要ノモノナリ蓋シ此荷車ヲ使用スレハ馬一足ニテ引ク所ノ量コレヲ其背駄スルニ較フレバ四倍ナルヘシ此故ニ此駕馬ノ現今荷車ヲ北海道ニ使用スルニ於テハ從來右ノ道ニ使用スル馬數ノ三倍若クハ四倍ニモ對スヘキナリ故ニ余ハ草ニ馬背ニ駄シテ物品ヲ運搬スルヨリモ荷車ヲ使用スレハ運搬法ノ改良進歩ヲ証スヘシ且ツ北海道ニ在テハ非常ニ馬ノ價直廉ナレハ人々皆右ノ如キ荷車ヲ使用シテ丈ニ自家ヲ利益スベシ而シテ漸々道路モ改良スヘケレハ其道路ノ改良スルニ從テ自然ニ荷車ノ數モ増多シ製作モ改良シ此ニ由テ諸物品荷物亦モ益々輻湊スルニ至ルヘシ運搬輕便トナレハ從テ物價低下ス

ヘシ又タ風雨霜雪ノ時ニ當リテハ人皆步行ヲ欲セサレハ蓋シ人情ナレハ今此駕馬ノ車ニ由リテ大ニ諸人ノ往來ヲ輕便ナラシムヘキナリ
北海道ノ馬ハ日本内地ノ馬ニ較ブレハ小形ナリ且ツ之ヲ蓄養スルニ手數ヲ要セサルモノニテ週年ノ間多分ハ勝手ニ平原ニ放テ自カラ青草ヲ齧セシムルノミ然レモ冬中ハ甚タ可憐ノ状態ナリト聞ケリ
北海道ニ在テハ殊更ニ人口稀少ナルヲ以テノ故ニ勞力者ノ備價甚タ貴シ因テ馬ヲ使用スレハ人カヲ補助スルノ家モ大ナリ且ツ幼仔ノ馬ヲ能ク注意シテ牧スレハ其利スル所大ニ旧觀ヲ改ムズシ即チ若少ノ時ニ使用セスレテ其全ク生長セシキニ當リテ使用センコトヲ要ス
人口ヨリモ多ク馬ノ蕃息スル所ニハ之ニ輕稅ヲ課シ此稅ヲ以

ノ
濱
ノ

ノ
濱
ノ

テ道路オノ修復費ニ充ツルヲ得ベシ且ツ道路平坦ナレハ馬ヲ
牧畜スル人々等ノ為ニモ間接ニ於テ其利益トナルヘキナ
若シ余輩北海道ニ於テ諸品運搬ノ今日ヨリモ稀少ニシテ從テ
其價直タル今日ヨリモ一層騰貴シ且ツ馬モ今日ノ如ク蕃息ス
ルナク從テ其價直タル今日ノ如ク下直(拾円乃至拾五円)ナルナ
カリセハ其馬ノ大功用アルヲ覺フ今日ノ比ニ非サルニシ又
タ其馬ヲシテ猶ホ多ノ諸事ニ使用シテ益其功用ノ普子キヲ了
解スベシ、

北海道ニ於テ馬大ニ蕃息スレハ從テ其病モ流行スルヲアリテ
終ニハ諸部ニ漫延スハケレハ慎ンテ之ヲ防禦ヲ加ヘサルハカ
ラサルナリ蓋シ此病ハ其及ブ所随分害ヲ作スヘケレハナリ既
ニ余カ本國ニ於テ數千万頭ノ馬一週間ニ相繼テ斃レ為ニ此害
ヲ蒙リシ諸部落ハ全ク運搬ヲ硬塞シ從テ高品贏利俵セテ以テ

喪失セシコアリ、

馬皮ハ善ク製作ヲ加フレハ商業ニ在テ贏利スルノ品物ナリ例
之ハ澳國露國ニ在テハ多ク之ヲ製造シ自國ノ需要ニ供スルノ
ミナラス多ク之ヲ輸出セリ然ルニ聞ク所ヲ以テスレハ現今北
海道ニ於テハ老弱ニシテ使用シ難キ馬ハ無用トシテ之ヲ放棄
セリ是レ之ヲ放棄スルノ人ハ獨リ馬ヲ放棄スルト思フヘケレ
ハ馬皮ヨリ生スル贏利ノ俵ヲ俵セテ共ニ之ヲ放棄スルモノナ
リ故ニ馬草ヲ製作スルハ現今北海道人民ノ家業閑暇ニシテ
窮乏ナルモノニ在テ有利ノ營業ナリト云フヘキナリ
夫レ良馬ヲ産スルニハ自今數年ヲ待タカルヘカラス即テ外國
ノ馬ヲ日本馬ト交接シテ生シタル第一代ノ雜種ノ北馬ニ日
本ノ牡馬ヲ交接セシメ第二代ノ雜種馬ヲ産スルヲ待ツベシ此
第一代ノ雜種馬ハ第一代ノ雜種馬ヨリモ強健ニシテ能ク荒社

馬種

充ツルヲ得ベシ且ツ道路平坦ナレハ馬ヲ
モ間接ニ於テ其利益トナルヘキナ
テ諸品運搬ノ今日ヨリモ稀少ニシテ從テ
モ一層騰貴シ且ツ馬モ今日ノ如ク蕃息ス
ル今日ノ如ク下直(拾円乃至拾五円)ナルナ
用アルヲ覺フ今日ノ比ニ非サルベシ又
ノ諸事ニ使用シテ益其功用ノ普子キヲ了
蕃息スレハ從テ其病モ流行スルヲアリテ
ハケレハ慎シテ之ヲ防禦ヲ加ヘサルハカ
ハ其及ブ所随分害ヲ作スヘケレハナリ既
千万頭ノ馬一週間ニ相繼テ斃レ為ニ此害
運搬ヲ硬塞シ從テ高品贏利俵セテ以テ

フレハ商業ニ在テ贏利ナルノ品物ナリ例
ハ多ク之ヲ製造シ自國ノ需要ニ供スルノ
出セリ然ルニ聞ク所ヲ以テスレハ現今北
シテ使用シ難キ馬ハ無用トシテ之ヲ放棄
ルノ人ハ獨リ馬ヲ放棄スルト思フヘケレ
利ノ貨ヲ俵セテ共ニ之ヲ放棄スルモノナ
ルハ現今北海道人民ノ家業閑暇ニシテ
有利ノ營業ナリト云フヘキナリ
ハ自今数年ヲ待タカルヘカラス即チ外國
又接シテ生シタル第一代ノ雜種ノ牝馬ニ日
ノ第二代ノ雜種馬ヲ産スルヲ待ツベシ
一代ノ雜種馬ヨリモ強健ニシテ能ク荒仕

馬種改良ノ了ハ從來既ニ着目注意ニ現ニ之ヲ施行セリ

事ニ堪ヘルノ良馬ナリ現今日本ニ於テハ小形ナル日本ノ此馬
ト大形ナル米産ノ馬若クハ「アラビヤ」産ノ馬ト交接セシメ生
シタルモ、シ是其第一代ノ雜種馬ナルヲ以テ動スレハ四支
損傷等ノ害ニ罹リ易シ
畦圃ハ七重村及ヒ札幌近傍ニ於テ種々実験セシメ皆随分勤勞
效驗アルノ状態ナリ、

綿羊ヲ牧スルハ北海道ニ在テハ容易ナラサルカ如ク然リ故ニ
今一二ノ所見ヲ述ベントス、顧フニ現今牧スル所ノ綿羊ハ澳國
及ヒ支那ヨリ移セシモノ多クルヘシ抑モ綿羊ハ種々ノ疾病ニ
罹リ易キモノナレハ之ヲ牧スルニハ大ニ經驗配慮ヲ要セサル
ヘカラス而シテ寒暑雨湿劇甚ナレハ皆尾害ヲ来スモノナリ又
タ他國ヨリ移スニ當リテ風土ニ習慣セシムルニハ容易ナラサ
レハ其生國ノ氣候ト北海道ノ氣候ヲ料リ北海道ノ氣候タル其

生國ノ氣候ト大抵同様ナル時ニ到着セシメガルベカラズ但シ
舟ヨリシテ運輸スルヲ好トス、

「ホンガリー」ノ綿羊牧畜法ハ世ノ稱賛スル所ナルカ該地ノ氣候
ヨク北海道ト類似スレハ今試ミニ「ホンガリー」ヨリ綿羊ヲ此北
海道ニ移サバ其效ナキニ非サルヘシ、

北海道諸部ニ於テ移住民花ニ土人ノ馬鈴薯ヲ培養スルヲミル
ニ勿論現今ノ所ニテハ其業ハ未タ倥々ナレトモ秋獲ハ大ニ效績
ヲ致セリ

此馬鈴薯培養法ハ至テ草簡ノモノナルカ其盛大ナルニ至リテ
ハ馬鈴薯「ブランド」酒ヲ製造シ之ヲ「カカレ」シベリヤ魯國ホ
ニ輸出スル、得バシ此馬鈴薯「ブランド」ハ日耳曼國ニ於テ甚

タ多ク製造スル所ノモノナリ
傭夫稀少ナル國ニ在テハ多ク時日ヲ要セス多ク傭夫ヲ要セサ

ル製品ヲ撰ンテ着手セサルヘカラズ是レ官民共ニ須カラク注
意スヘキ所ナリ

北海道ニ於テ到ル処野花爛漫トシテ芳香遠達ニ且レハ蜜蜂ヲ
育セハ必ラス致績アルヲミルヘシ

札幌ニ於テ製造セシ麦酒ハ甚タ上品ナリ若シ之ヲ大量ニ製造
セハ廉價ニテ販賣スルモ大利アルヘキナリ但シ麦酒ヲ製スル

ニハ夏分ハ氷ナケレハ醸成スルヲ難ク又タ忽布州ナケレハ其
味ヲ生セサルモノナルニ今此北海道ニ在テハ氷モ忽布モ之ヲ

他邦ニ求ムルニ及ハス故地ニ沃山ナレハ是レ贏利ヲ享ルノ大
本ナリ然リ而シテ麦酒ヲ賣捌ニ就テハ北海道及ヒ日本内地ニ

於テ賣捌キ処ヲ設クヘキナリ

北海道ニ在テハ砂糖甜菜ヲ培養スルハ宜モ德通スヘキノコナ
リ此糖菜ヲ培養スレハ現今ハ荒蕪ニ委セシ平原モ之カ為ニ自

然ニ肥沃トナリ播殖ノ地トナルヘシ且ツ甜菜タル砂糖ヲ製造
セシ残余ハ之ヲ牛馬豚類ノ飼料トナスベシ特ニ冬中家畜類ノ

食物稀少ナル時ニ在テハ其必要ナル實ニ宝玉モ當ノミナラサ
ルナリ

一般ニ移住民花ヒアイノリニ間地ヲ与ヘテ種々ノ売物ヲ各圃
ニ藝種セシマ其結果ノ善惡多少ヲ稟白セシメハ政府宜良ノ經

験ヲ得ヘシ然ル後政府此最良ノ方法ニ從テ着手セハ大效績ヲ
ルヲミルベシ是レ余カ德通スル所ナリ

海魚類ニ就テハ種々ノ鰻魚属アルヲミタリ特ニ鰻魚ニシテノ
類大ニ漁網ニ落チタルヲミタリ且ツ清魚ノ類夥多ナルカ現今

専ラ之ヲ煎熟シテ油ヲ製セリ右等ノ魚類ハ宜モ好産物ナルヘ
シ之レ人ノ知レルヲナルダイシ(錐詰鰻魚)ノ如ク錐詰ニシテ販賣

セバ大利トナルヘキナリ此「サセダイシ」ナルモノハ北海道ノ此

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

滋養
糖等
糖類

物産

砂糖
系拆

石地ニ
人民

サルト

カールヘカラズ是レ官民共ニ頂カラク注

花爛漫トシテ芳香遠近ニ亘レハ蜜蜂ヲ

ルヲミルヘシ

酒ハ甚タ上品ナリ若シ之ヲ大量ニ製造

モ大利アルヘキナリ但シ麦酒ヲ製スル

醸成スルノ難ク又タ忽布^{ホツ}ナケレハ其

ニ今此北海道ニ在テハ氷モ忽布モ之ヲ

設地ニ沃山ナレハ是レ贏利ヲ享ルノ大

ニ賣捌ニ就テハ北海道及ヒ日本内地ニ

キナリ

甜菜ヲ培養スルハ最モ德^{ドイツ}ニシテ

現今ハ荒蕪ニ委セシ平原モ之カ為ニ自

地トナルヘシ且ツ甜菜タル砂糖ヲ製造

類ノ飼料トナスベシ特ニ冬中家畜類ノ

ハ其必要ナル實ニ宝玉モ當ノミナラサ

ノ^ノニ間地ヲ与ヘテ種々ノ売物ヲ各圃

善惡多少ヲ稟白セシメハ政府最良ノ經

此最良ノ方法ニ從テ着手セハ大效績ア

德^{ドイツ}ニシテ

鯉魚^{イナダ}属アルヲミタリ特ニ鰯魚^{イワシ}ニシテ

ヲミタリ且ツ清魚^{セイゴ}ノ類夥多ナルカ現今

製セリ右等ノ魚類ハ最モ好産物ナルヘ

ル^ルカイン^{カイン}錘^錘詰^詰魚^魚ノ如ク錘詰ニシテ販賣

此^此サ^サゲ^ゲイン^{イン}ナルモノハ北海道ノ此

機械^{機械}ノ使用^{ノ使用}人カヲ省クハ從來最モ注意スル所ナレハ農事ニ新
米^米等^等ノ器械^{ノ器械}ヲ使用シ其他製粉^{製粉}木挽^{木挽}軋^軋製糸^{製糸}紡織^{紡織}等^等ノ器
械^械ヲ建^建設^設シテ後^後其^其業^業ノ盛大^{盛大}ニ趨^趨カントラ期セリ

新産賣所^{新産賣所}所^所及^及取次^{取次}人^人等^等ハ既ニ設置セシモノアリ

砂糖^{砂糖}甜菜^{甜菜}ハ先年^{先年}來^來既ニ之ヲ試驗^{試驗}ノ為^為培養^{培養}シ本年^{本年}モ既ニ其糖分^{其糖分}
分析^{分析}中^中ナリ

石地^{石地}ニ官園^{官園}或ハ勸業^{勸業}試驗場^{試驗場}ヲ設ケテ種藝^{種藝}等^等ノヲ試
人民^{人民}ヘ示諭^{示諭}シテ之ヲ勸誘^{勸誘}セリ

カ^カル^ルカ^カイン^{イン}ノ製造^{製造}ノ^ノハ當今^{當今}試驗^{試驗}中^中ナリ

魚ト全ク同種ノモノナリ、伊太利及ヒ佛國ヨリ此種魚数百万箇
全世界ニ輸出セリ、

漬鮭魚及ニ熏鮭魚、其製甚佳ナリ唯惜ム所ノモノハ熏鮭魚ノ
其性質ハヨケレヒ少シ湿気ヲ帯ヒタルナリ

鹿肉ノ錐詰ハ廉價ナル上ニ其製甚佳ナレハ指テ云フヘキ申分
ナシ唯製造所ノ不同ニヨリテ較ヤ味ノ差異アルノミ

柝モ鹿肉ノ北海道ニ於ケルハ重要ノモノナルニ今其鹿ヲ銃獵
スルニ時ヲ以テセズ勝手ニ人ノ銃獵スルニ委シ之ヲ鑿殺スル

ハ誠ニ不経済ノ至ナリ是レ鹿獵ノ規則ナキヤ疑ヲ容レカルナリ
古今ノ如ク鹿獵ノ規則ナクシテ數年ヲ經過セハ其成果タル終

ニ北海全道ノ鹿ヲ殺シ尽シテ遺類ナキニ至ルヤ必セリ是レ西
洋各國ニ在テモ昔時銃獵ノ規則ナカリシカ故ニ生數殺數相償

ハス終ニ大ニ後悔スル所トナレリ

獸類ノ耕作ニ害ヲ作シ周年間一所ニ群集シニ去ラサルノ地ニ

在テハ嚴肅ノ方法ヲ設ケ之ヲ禁スヘケレハ北海道ニ在テハ現

今其ニ後來トモ獸類ノ害サマデノヲナカルベケレハ成ルニキ

大良法ヲ設ケテ之ヲ保護セサルヘカラサルナリ、

此故ニ今余外國ニ於テ實際施行スル銃獵規則ノ法ニ從テ之ヲ

折衷シテ北海道ニ施行アランヲ懲通ス其規則タル銃獵ノ期

限ヲ定ムルヲナリ即チ秋及ヒ初冬ニ於テ幾日カノ期限ヲ定メ

此期限間ハ北牡ノ鹿共ニ之ヲ銃獵スルヲ許スヘシ而後又々

期限ヲ定メ此期限間ハ唯々牡鹿ノミヲ銃獵スルヲ許スヘシ

而シテ又々牡鹿ノ價直ヲシテ北鹿ノ價直ノ上ニアラシムル様

ノ規則亦或ハ施スヲ得ヘキナリ固ヨリ此時ニ當リテハ北鹿

胎孕スレハ勿論此北鹿ヲ銃獵スルヲ嚴禁タルヘキナリ是

レ大ニ鹿ノ北牡ヲ同ハス共ニ保存スルニ足ルヘシ

リ、伊太利及ヒ佛國ヨリ此種詰數百萬箇

製甚佳ナリ唯惜ム所ノモノハ熏鮭魚ノ
濕氣ヲ帶ヒタルナリ

上ニ其製甚佳ナレハ指テ云フヘキ申分
ヨリテ較ヤ味ノ差異アルノミ

ケルハ重要ノモノナルニ今其鹿ヲ銃獵
手ニ人ノ銃獵スルニ委シ之ヲ鑿殺スル

是レ鹿獵ノ規則ナキヤ疑ヲ容レカルナリ
ナクシテ數年ヲ經過セハ其成果タル終

尽シテ遺類ナキニ至ルヤ必セリ是レ西
獵ノ規則ナカリシカ故ニ生教殺教相償

所トナレリ

周年間一所ニ群集シニ去ラサルノ地ニ
ケ之ヲ禁スヘケレハ北海道ニ在テハ現
害サマデノヲナカルベケレハ成ルヘキ
護セサルヘカラサルナリ

實際施行スル銃獵規則ノ法ニ從テ之ヲ
アラシメテ初冬ニ於テ幾日カノ期限ヲ定メ
秋及ヒ初冬ニ於テ幾日カノ期限ヲ定メ

唯々牡鹿ノミヲ銃獵スルヲ許スヘシ
上ヲシテ北鹿ノ價直ノ上ニアラシムル様
得ヘキナリ固ヨリ此時ニ當リテハ北鹿

鹿ヲ銃獵スルハ嚴禁タルヘキナリ是
ス共ニ保存スルニ足ルヘシ

及出獵ノ事
十月北海道鹿獵規則ヲ設ケテ職遊獵ノ人負
季節ヲ定メタリ

右ノ規則ヲ将来数年間連續シテ施行セハ北海道ニ於テ鹿肉勝
テ喰フヘカラス且ツ日本内地ニモ充分供給シ外國ニ充分輸出
スルニ足レハキハ疑ヲ容レサルナリ然ルニ聞ク所ヲ以テスレ
ハ北海道ノ諸部ニ於テ曾テ僅カ数年前ニ在テハ数多ノ鹿アリ
シモ現今ニ於テ既ニ一足ヲモ觀ルヘカラスルニ至レリト云ハ
リ是レ僅カ数年ニシテ斯ノ如クナルキハ此上数十年ヲ經過ス
ルノ後ニ至テハ其結果果シテ如何ソヤ
当今政州ニ在テハ其政府ニ屬シタル山林ニ産スル鹿(牝牡及ヒ
仔)ノ個數ヲ計算セリ而シテ且ツ年々ノ生育ノ概數ヲ計算セリ
然リ而シテ牝牡仔ノ三數ヲ總計シテ以テ年々銃獵スヘキ鹿ノ
數ヲ制定セリ
北海道ニ在テハ勿論斯ノ如キ精細ノ計算ハヤシテ要用トモナ
ルヘカラサルヘシ且ツ精算ヲ為スハ容易ナラサルヘシ然レモ

銃獵スヘキ鹿ノ個數ヲ定ムルハ難カラサルヘシ即チ其個數ヲ
定ムルハ其多少ニ依リテ各地ニ様ナラサルヘシ且ツ輕量ニ銃
獵稅ヲ課スレハ将来ニ於テ自然ト鹿ノ浪層ヲ防セクニ足ルヘ
シ
鹿皮及ヒ鹿角ノ函館ヨリ諸方ニ運輸スルモノヲ計算シテ断ス
ルニ現今鹿ヲ銃獵スル實ニ其産數ノ上ニ出ツルヲ知ルヘシ
余輩過タルトコロ樹木蓄鬱トシテ際涯ナキナミル是レ其種類
性質モ一ニシテ正マラス皆北海道ノ貴重物ナリ然ルニ此大木
良材今ハ道路硬塞ナルヲ以テ空シク山野ニ腐汚ス惜ムヘキナ
リ然レモ道路改正シ運搬ノ方改良セハ終ニ大利トナルヘキナ
リ現今ノ所ニテハ馬一疋ニ付キ其運ブトコロ板五枚若シクハ
六枚ニ過サルナリ然レモ之レニ荷車ヲ駕スレハ其運ブトコロ
四倍以上ニ至ルヘシ即チ二十枚若シクハ三十枚ヲ運ブヘシ

木伐

連續シテ施行セハ北海道ニ於テ鹿肉勝
本内地ニモ充分供給シ外國ニ充分輸出
容レサルナリ然ルニ聞ク所ヲ以テスレ
曾テ僅カ數年前ニ在テハ數多ノ鹿アリ
足ヲモ觀ルハカラサルニ至レリト云ハ
斯ノ如クナルキハ此上數十年ヲ經過ス
不果シテ如何ソヤ

以府ニ屬シタル山林ニ産スル鹿(牝牡及ヒ
而シテ且ツ年々ノ生育ノ概數ヲ計算セリ
數ヲ總計シテ以テ年々銃獵スヘキ鹿ノ
數、如キ精細ノ計算ハヤシテ要用トモナ
精算ヲ為スハ容易ナラサルハシ然レモ

定ムルハ難カラサルハシ即チ其個數ヲ
テ各地一様ナラサルハシ且ツ輕量ニ銃
於テ自然ト鹿ノ浪層ヲ防セクニ足ルハ

リ諸方ニ運輸スルモノヲ計算シテ断ス
實ニ其産數ノ上ニ出ツルヲ知ルハシ
本藩對シテ際涯ナキヲミル是レ其種類
ス皆北海道ノ貴重物ナリ然ルニ此大水
ヲ以テ空シク山野ニ腐汚ス惜ムヘキナ
運搬ノ方改良セハ終ニ大利トナルヘキナ
是ニ付キ其運バトコロ板五枚若シクハ
氏之レニ荷車ヲ駕スレハ其運バトコロ
即チ二十枚若シクハ三十枚ヲ運バヘシ

本枝輸出ノ事ハ從來大ニ見込アルナレハ兩三年前ヨリ試賣及
七代出場撰定等ノ一ニ着手シ追々盛大ニ施行スルノ目途アリ

札幌ヲ巡視スルニ家屋構造ノ為ニ土地ヲ分画セシ所ニ悉ク樹木ヲ斬伐シ一株ヲモ遺サ、ルナリ但シ従前ハ随分樹木ヲ蓄積タリシ所ナルベシ

樹木ハ蔭ヲ成シテハ炎熱ヲ遮キリ雨ヲ招テ土地ヲ潤ホス才總テ人身健康ノ為ニモ耕種ノ為ニモ其用ノ鮮少ナラサルハ世ノ能ク知ル所ナリ然リ而シテ殊ニ大都會人馬輻輳ノ地ニ在テハカノ及ブ所コレヲ保存シ其長大ニ過キテ街中高業ノ妨害トナラサリレヨリハ慎ンテ之ヲ斬伐スル莫カルヘシ

何レノ國ニテモ昔人ノ樹木ヲ輕忽ニシテ斬伐シ尽セシ所ニハ今猶ホ穉樹ノ種藝スルヲミル
札幌近郊ノ地價タル壹千坪ニ付キ壹圓五十匁ナリ是レ非常ノ廉價ナリ而シテ聞ク所ヲ以テスレハ十ヶ年間ハ無税ナリ其寬裕廉價ナル實ニ驚クニ堪ヘタリ今日日本政府斯ノ如ク寬裕廉價

北海道
支廳
ノヲ
七重

ヲ以テ開墾ノ事業ヲ懲慝スルニ人民ノ此庇蔭ニ依頼シテ以テ憤發興起スルモノ、ナキハ復タ恠シムヘキコトナラスヤ、顧ニ其憤發興起セサルノ源因ハ十ヶ年間ハ無税ナリトイヘ、十年後ニ至ラハ苛酷ノ重税ヲ課セラレンコトヲ懼ルニ職由スルナルヘシ故ニ現今ニ於テ此十ヶ年後ノ地稅ヲ概畧ニモ確定セハ之ニ由テ人民ノ危懼ヲ去リ盛ニ開墾ヲ進ムルノ道ニ於テ豈ニ得策ナルナカランヤ然レニ此事既ニ政府ノ按スル所トナリシナルベシ

札幌ノ地位タル猶ホ海岸ニ近接シ舟航ノ便宜猶ホ齊整ナラハ一層高業ノ繁昌センコト疑ヲ容レサルナリ、札幌ト小樽灣（氣候暖和ノ節ハ泊舟ニ便ナリ）トノ間ノ道路ハ現今ノ終ニテモ随分札幌ヲシテ海岸ニ近接セシメ且ツ日本内地トノ通信ニ便宜ナル至要ノ道路ナレニ修繕行届カスシテ人馬共ニ之ニ苦メリ

北海道
條例
舟用
札幌
月令

北海道
ヲ以テ

構造ノ為ニ土地ヲ分画セシ所ニハ悉
モ遺サ、ルナリ但シ従前ハ随分樹木

熟ヲ遮キリ雨ヲ招テ土地ヲ潤ホス才
種ノ為ニモ其用ノ鮮少ナラサルハ世ノ
シテ殊ニ大都會人馬輻輳ノ地ニ在テハ
シ其長大ニ過キテ街中高業ノ妨害トナ
之レテ斬伐スル莫カルヘシ
樹木ヲ輕忽ニシテ斬伐シ尽セシ所ニハ
ヲミル

千坪ニ付キ壹圓五十匁ナリ是レ非常ノ
ヲ以テスレハ十ヶ年間ハ無税ナリ其寬
堪ヘタリ今日日本政府斯ノ如ク寬裕廉價

憑スルニ人民ノ此庇蔭ニ依頼シテ以テ
キハ復タ恠シムヘキコトナラスヤ、顧ニ
因ハ十ヶ年間ハ無税ナリトイヘ凡十年
ヲ課セラレントヲ懼ルニ職由スルナ
此十ヶ年後ノ地稅ヲ概畧ニモ確定セハ
去リ盛ニ開墾ヲ進ムルノ道ニ於テ豈ニ
レ此此事既ニ政府ノ按スル所トナリシ

岸ニ近接シ舟航ノ便宜猶ホ齊整ナラハ
疑ヲ容レサルナリ、札幌ト小樽灣(氣候暖
トノ間ノ道路ハ現今ノ終ニテモ随分札
シメ且ツ日本内地トノ通信ニ便宜ナル
行届カスシテ人馬共ニ之ニ苦メリ

北海道山林野調査後條例元森林監護條例アリ又函館
支廳管下ニハ部分木仕付條例ヲ設ケテ人氏ハ苗木仕付ノ
ヲ勸誘シ且從來苗仕付ノハ大ニ注目シ札幌水廳及ヒ
七重試験場等ニテハ既ニ播種等ノヲ施行セリ

北海道地租ハ地價百分ノ一ニ定ムル旨明治九年芽百六十一号
ヲ以テ一般へ布告相成タリ

北海道ニ於テハ舟航ノ便宜ヲ開ク最モ緊要ナルヲ以テ造船願請
條例ヲ設ケ西洋放風帆船ヲ製シ代金八年賦等ヲ以テ人氏ノ下
付シ人氏ニ於テモ之ヲ製造スルモノモアレハ追々船數増加シ且小樽近
傍ハ廻運送用ノスケール小風帆船石狩川口出入船ノ亦岸
舟用ニ供スル等ノ小蒸汽船各貳艘目今官ニ於テ製造中ナリ
札幌近傍海陸運輸ノ便宜ヲ開クハ從來大ニ注意スル所ニシテ
目今指画スル所ノモノタリ

北海道ノ人口ハ總テ是レ日本内地ノ移住民ト「アイノ」トナリ
而シテ「アイノ」ハ全人口ノ五分ノ一ナリ「アイノ」ハ其性質善
良ナレハ今之レヲ教育セハ必ラス北海道ノ為メニ有益ナルヘ
シ

夫レ北海道ノ殖民タル獨リ理財上ノ點ヨリシテ重要ナルノミ
ナラス其地位タル日本北門ノ鎖鑰ナレハ政治上ノ點ヨリシテ
モ亦重要ノ事件ナリ但シ其殖民ノ事件ニ就テハ論ハ幾年カハ
種々ノ費用アリテ其歳出タル歳入ヲ償フニ足ラサルヘケレド
終ニハ其産物ヲ自國ニ使用スルノミナラス之ヲ外國ニ輸出シ
テ大ニ利益ヲ得ヘキナリ、

猶ホ又タ日本政府起業ノ企アルカ為メニ日本ノ北部例之ハ奥
州ホノ如キ地ニ耕作ノ為メニ人民ノ日本ノ南部ヨリ移住スル
「アラハ」北海道モ之レカ為ニ間接ニ於テ大ニ利益ヲ生スヘシ

殖民
規則

斯ノ如キニ至テハ現今北海道ヨリ生スル重要ノ貿易品即チ鑛
屬、石炭、及ヒ木材等ヲ陸續トシテ万国ノ市場ニ運輸スヘケレハ
今此彈丸黒子ノ一孤島ナルモ其各隆々トシテ起リ終ニ海内ニ
轟カシ「猶ホ」地雷一タヒ動テ万国齊シク其聲ヲ聞クカ如クナ
ルヘシ、

レ日本内地ノ移住民ト「アイノ」トナリ
ロノ五分ノ一ナリ「アイノ」ハ其性質善
セハ必ラス北海道ノ為メニ有益ナルハ
獨リ理財上ノ點ヨリシテ須要ナルノミ
北門ノ鎖鑰ナレハ政治上ノ點ヨリシテ
シ其殖民ノ事件ニ就テハ論ハ幾年カハ
出タル歳入ヲ償フニ足ラサルヘテレ
使用スルノミナラス之ヲ外國ニ輸出シ
リ、
ノ企アルカ為メニ日本ノ北部例之ハ奥
為メニ人民ノ日本ノ南部ヨリ移住スル
カ為ニ間接ニ於テ大ニ利益ヲ生スヘシ

テ北海道ヨリ生スル重要ノ貿易品即チ鑛
續トシテ万国ノ市場ニ運輸スヘケレハ
ナルモ其各隆々トシテ起リ終ニ海内ニ
ヒ動テ万国齊シク其聲ヲ聞クカ如クナ

殖民ノ事ハ從來最モ着意スル所ナレハ各府縣ヨリ新ニ移住
セントスル人民取扱等ノ方法ヲ改良シテ大ニ之ヲ勧誘セント目下
規則更正案等調査中ナリ

頓首再拜謹テ大隈公閣下ニ白ス別紙ハ閣下ノ教示ニ従ヒ北海
道經歷中一ヶ月間手記スル所ノ舟見ナリ今稿ヲ脱スルヲ以テ
謹テ閣下ニ呈ス然ト虽此記タル固ヨリ自家ノ舟見ナレハ御
採用ニナルヘキ慮ハ誠ニ鮮少ナルヘシ然レモ仰キ願ハ一二嘉
納セラル、所アラハ幸甚恐惶誠懼

一千八百七十八年九月十五日
ヘンリー、フォン、レーボルト

日本帝國大藏卿大隈重信公閣下

Blank page with faint bleed-through from the reverse side.

Blank page with a red-lined grid for writing. Faint bleed-through is visible. On the right edge, there is a vertical column of red characters: 大, 藏, 卷.

